

地域みんながいきいきと暮らし続けるために

「なんとかせな」

地域で高齢者の困りごとを
解決する仕組みづくりが広がる

島学区

五月自治会

島学区で始まった「買い物支援」

全国的に将来人口が減り、高齢者のみの世帯、お年寄りの一人暮らし世帯が増える中、島学区においてもその度合いが顕著に現れてきました。島学区にはお店がほとんどなく、買い物に行くには、交通が不便で車に頼っています。これまで、単発で実施する事業に集まった人数が事業の評価の指標になっていましたが、これからは「高齢者に喜んでもらえるよう困り事の支援をしなければならぬ」「まちづくり協議会がサポートの中心にならなければならない」と思っていたところ、市で「商助」の

会議がありました。

その時に、平和堂のホームサポート事業の配達エリア外である島学区で、買い物支援をモデル的にできな



▲雨が降ったときは、買い物支援ボランティアが配達のお手伝い

いかとアプローチがありました。「何とかやってみよう!」と、コミュニティセンターを配達拠点として始めました。コミュニティセンターは敷居が高くてなかなか行けないという声もありましたので、一人でも多くの方がセンターに気軽に遠慮なく、そして普段着でお店に行く感覚で商品を取りに来ていただければ一番いいと、そこから話が生まれ、まさにこれからのまちづくりのコミュニケーションを広げる一つの軸になるんじゃないかと考えました。

「^{しょうじょ}商助」という言葉には、最初違和感がありましたが、商売の「商」は、秋に物々交換を行うのが語源なんですね。それが、経済、社会になって貨幣が流通して、ものを買う中でお互いが成り立つ、まさに「三方よし」ですね。その仕組みだと分かったときに、「商助」は素晴らしい言葉だと理解できました。

「まちづくりは、

福祉分野に足を踏み入れる時代」



前 島学区まちづくり協議会
事務局長 大西 實さん

**健康な高齢者がサポート
そんな理想郷を目指したい！**

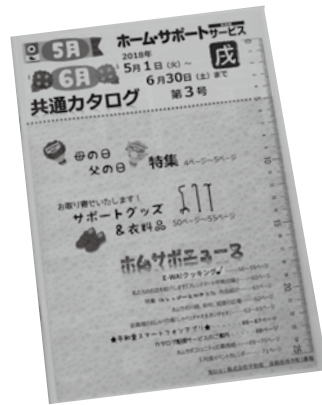
アンケートを行い、たくさんの方の反響がありました。まずは7件でスタートしました。申し込みも意外とスムーズにでき、週1回ご利用いただいでいて、皆さん喜んでいきます。自治会長や民生委員、買い物支援ボランティアから広めていただいで、もう少し利用が増えればと思います。コミュニティセンターへ取りに来てもらうことで、利用者の元気な様子が確認でき、一言二言会話も増えました。また、体操教室にも正式に加入され、来られる回数が増えた人もおられます。

「住み続けたい島学区」を目指しています。「不便」とか「住みにくい」



▲買い物支援で購入できる食材を使って、利用されている皆さんと料理教室を行いました

と思わさない、それが今の大きな目標と思っています。離れて暮らす家族にも安心材料となり、Uターンの人が増えたりなど、そういうことが、まちづくりの大きな鍵になるのではないかと期待しています。



▲買い物支援カタログ

まずは実践することから

人間は、損得を勘定したり、責任の所在を追及したりしがちですが、まずはその地域のために何ができるか、何をしなければならぬかが大切。一人でも喜んでいただける利用者があれば「まず実践」をして、輪を広げていただく。サービスに参加していただき、喜んでいただける人を増やしていただけたらと思います。どうしても全体の結果を見がちですが、これからやろうとされるころは、ぜひやってみてほしいと思います。

**運転免許証を返納
本当に助かっています**

平田 美代さん



コミセンが近いし、コミセンまで行くのも運動になります。買い物支援が始まるまでは、定期的に行く機会もなかったです。ちょうど昨年12月に免許を返し、この辺は、本当に何もなし、大助かりです。生協も頼んでいて、それで忘れたものを頼んでいます。

毎週利用しています

犬丸 清さん



毎週利用しています。休んだことはありません。コミセンまで自転車で取りに来ています。ずっと続けられたらありがたいと思います。運転は得意ですが、子どもらを安心させようと思いやめました。やめたら不自由です。「近所でも乗せよう」と言ってくれる人がいるけれど、お返しすることができないから断っていました。

**買い物支援から
輪が広がっています**

買い物支援ボランティア 西 文子さん



買い物支援の利用者など、島学区にお住まいの75歳以上の人が、健康推進員と一緒に料理教室を開きました。みんなでいろいろなお話をしながらワイワイと料理を作って食べ、楽しい時間を過ごすことができました。今までお話をしたことがなかった人も、買い物支援をご利用いただくことから、コミュニティセンターを拠点にさまざまなつながりが生まれています。この輪をどんどん広げていけたらいいなと思っています。

五月自治会が動き出した

困ったときの「五月110番」

平成27年に市主催のキャラバンメイト養成講座を受け、2025年問題の認識をしました。地域では、なかなか「助けて」という声をどこへ言ったらいいかわからないということがあります。地域でまず助け合うために、話し合いを重ね、困っているから「助けて」と言える「五月110番」という仕組みを作りました。

高齢化が進む中、五月自治会としてどういう風に手助けできるか、具体的な困り事を調べるため、今年に入り「助けてほしい事・助けられる事」アンケートを実施し、支援の内容と運営のルールをつくり、支援依頼者と支援可能者に再度訪問確認作業を行っている段階です。

高齢者が書いた支援依頼の内容を、家族も知らないといけないので、依頼をされた家族にも確認しています。また、無記名の回答者が多くおられるため、災害時避難要支援者と70歳以上の1人暮らしの人にも訪問確認をしています。

「助けてほしい」とはなかなか言えない人がおられるので、気軽に言えるように、自治会2役に連絡、自治

会館に鍵付きP

O S Tを新設し

ました。民生・

児童委員、福祉

協力委員、自治

会役員とも連絡

を密に運営・対応

します。

実行部隊として

のお助け隊は、必

ず2人以上のボラ

ンティアで動くこ

とにしていて、自

治会内に住む、看



「五月110番」支援項目調査結果表

| 番号 | 項目 | 作業時間 | 回答数 | |
|-----|----|-------|--------|-------|
| | | | 助けてほしい | 助けられる |
| 無償 | 1 | 15分 | 1 | 76 |
| | 2 | | 46 | |
| | 3 | | 3 | 46 |
| | 4 | | 88 | |
| | 5 | | 84 | |
| | 6 | | 97 | |
| | 7 | | 48 | |
| | 8 | | 25 | |
| | 9 | | 28 | |
| | 10 | | 2 | 92 |
| | 11 | | 35 | |
| | 12 | | 26 | |
| | 13 | | 30 | |
| | 14 | | 41 | |
| | 15 | | 1 | 44 |
| 有償 | 16 | 30分以上 | 1 | 17 |
| | 17 | | 17 | |
| | 18 | | 18 | |
| | 19 | | 3 | 19 |
| | 20 | | 3 | 24 |
| | 21 | | 27 | |
| | 22 | | 2 | 27 |
| | 23 | | 2 | 26 |
| | 24 | | 2 | 21 |
| | 25 | | 25 | |
| | 26 | | 1 | 21 |
| | 27 | | 1 | 18 |
| | 28 | | 9 | 14 |
| | 29 | | 1 | |
| 総合計 | | | 32 | 1,080 |

護師などの医療職、介護福祉士などの福祉職や大工さんなど、専門知識も活かせるように考えています。ボランティア保険にも自治会で加入します。

話し合いの中では、いろんな意見が出て、心配事がたくさん出てきますが、心配していたら何もできません。まずやってみて、失敗したらその時考えようというふうなことで、はじめようとしています。

「まずは地域で助けなアカン」



五月自治会長 松岡 静司さん

商助推進のロゴマークを募集します！

地域全体で力を合わせて支え合いの推進をめざして、ロゴマークを募集します。

募集内容…事業活動を通じた、地域における高齢者の支え合いの推進により、地域全体が力を引き出し合い、活性化していく地域づくりをイメージさせる親しみやすくわかりやすいロゴマーク

応募資格…高校生以上で、1人3点まで

募集期間…8月1日(木)～31日(金) 午後5時必着

※詳しくは、市ホームページをご覧ください。

※応募される作品については、未発表かつ自作のもので、他の商標などの模倣でないものに限りません。応募作品は返却しません。

しょうじょ 商助 とは

近江商人の三方よし「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の精神にのっとり、事業者が地域への貢献に努力し、商いが地域を助け、地域が商いを助けるしくみを、高齢者の生活の支援体制に活かしていくしくみづくりを進めるものです。高齢者にしてあげるサービスではなく、高齢者や地域が本来持っている能力を引き出し、湧き出させる（エンパワメント）中で、今ある資源を活かしながら互いが参加し、活用しあうことが多様な可能性へとつながります。

「商う」の語源は、「秋、行う」だという説があります。昔、秋になると収穫した米を中心に、各地で物々交換の市が開かれ、地域の生活を支える取り組みとして位置づいていました。これに立ち返り、商いを通して、地域全体で支え合うことができるまちを目指します。

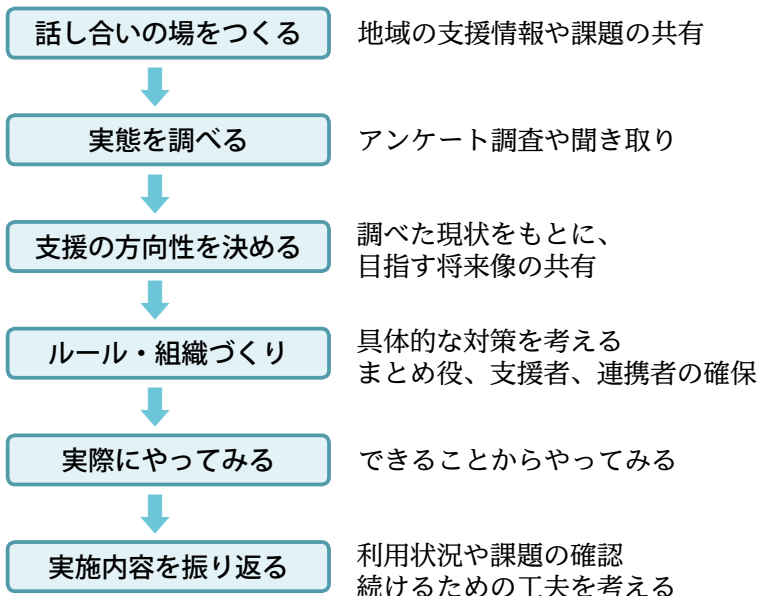
【具体的な実践の例】ごみ出しや電球交換など宅配ついででの生活支援

高齢者の集いの場所としてスペースの提供

地域拠点への外出や交流促進と地域活性化を目的とした買物支援



高齢者を支えるしくみづくりのながれ



高齢者はこんなことに困っています

| 在宅生活を続ける上で、利用したいサービス | 上位7つの割合 |
|----------------------|---------|
| 病院への車両による送迎 | 30.0% |
| 食事の配達 | 17.5% |
| 買物への車両による送迎 | 17.4% |
| 食事の準備・後片付け | 13.9% |
| 敷地の手入れ(草刈り、葉刈りなど) | 13.4% |
| 買物の代行 | 12.9% |
| 掃除 | 11.3% |

(平成28年度近江八幡市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査より)

※平成28年11月末日現在、本市在住の65歳以上の要介護認定を受けていない高齢者（一般高齢者、要支援者）を対象に実施